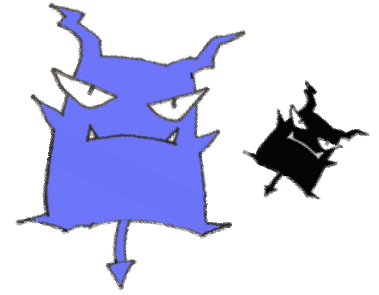


平成21年7月

かんせんしょう

京都市こどもの感染症



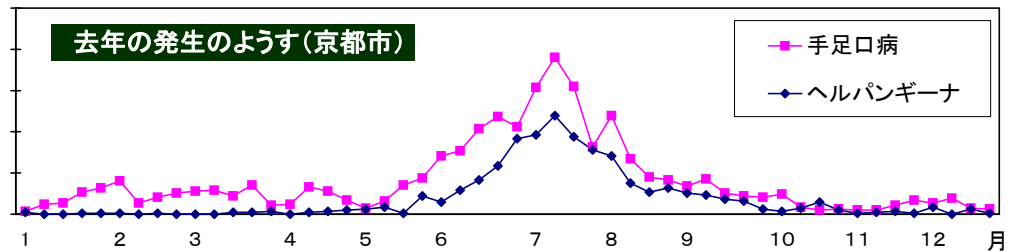
☆☆ 去年の今ごろ、京都市で多かった感染症

順位	1位	2位	3位
病気の名前	手足口病	感染性胃腸炎	ヘルパンギーナ

☆☆ こどもの夏かぜに注意！

夏かぜは、冬に流行するかぜとは違い、暑くて湿度が高い夏の環境を好むウイルスが原因となって流行します。

「手足口病」、 「ヘルパンギーナ」などが、夏かぜの代表です。



●● 手足口病の症状 ●●

手のひらや足の裏に痛みのない水泡ができ、口の中にも水泡ができます。口の中の水泡は、破れて口内炎になることもあります。発熱は、38度以下がほとんどです。

●● ヘルパンギーナの症状 ●●

のどに小さな水泡ができ、これが破れて痛みの原因となり、食事も取りづらくなりがちです。40度近い高熱も2～3日続きます。

◆◇ 予防と治療 ◆◇

原因となるウイルスの感染は、ウイルスを含むせきやくしゃみを、飛び散った際に吸い込んだり、おむつ替えなどで便に触れた手から口に入ることで起こります。

ワクチンや特効薬はなく、原因となるウイルスが何種類もあるため、何回もかかってしまうことがあります。

予防には、**うがいと流水での手洗いが大切です。**

感染すると、のどの痛みから水分を取りづらかったり、発熱や夏の暑さによる汗で脱水症状を起こしやすいので、特に**水分補給は十分に行いましょう！**

水分を子どもに与えるときは、少しずつ何度にも分けて与えたり、のどを刺激しないように、飲み物の温度を室温と同じ程度にするとよいでしょう。

発熱で暑がるようなときには、エアコンなどで室温を調整し、わきの下や足の付け根を冷やしてあげるのもよいでしょう。



◆◇ 最後に ◆◇

症状が軽いことの多い夏かぜですが、まれに重症化し、髄膜炎、脳炎、心筋炎などになる場合がありますので、軽いと思われる症状でも**気になる症状があるときは、かかりつけの医療機関に相談しましょう！**また、受診後も頭痛やおう吐、発熱が続く場合には、主治医に相談してください。